

湘南学園におけるLCF(Landscape Community Framework)を活用した景観教育

NPO法人日本景観フォーラム 景観教育プロジェクトチーム

1. 教育問題の現状分析

◆社会的要因

*社会問題化した“いじめ”の恒常的敷衍化と対応不可状況

- ① “いじめ”問題は学校内部だけの問題ではない
- ② “いじめ”対策は一教師の対応では不可
- ③ “いじめ”問題解決のためのシステムを導入する。

◆個別的要因（湘南学園）

- ①幼稚園から高校までの一貫教育（篤い人間関係と逃げ場なし）
- ②一定レベル以上の所得の家庭生活（高い要求と認識相違）
- ③短期的目標と長期的目標の相乗効果

◆国際的要請

★<ESD(Education for Sustainable Development)>の構築（2005年国連持続可能な開発のための教育10年）

ESDを構築する前提として、平和や国際的な連携を学校での実践を通じて促進することを目的に設けられたユネスコ・スクールは、下記の4分野を基本テーマとしている。

- (1)地球規模の問題に対する国連システムの理解。
- (2)人権、民主主義の理解と促進。 (3) 異文化理解。 (4) 環境教育。



<長期にわたる総合的な持続可能な教育計画が必要>

★景観教育は 地球規模の問題に対する国連システムの理解 (2) 人権、民主主義の理解と促進 に貢献する。

2. ESD構築のためのブレインストーミング

◆湘南学園のメインコンセプトは何か

- ⇒自由な人間像の構築（市民意識の醸成）
- ⇒質的に高い教育内容の提供

◆生徒たちのメインコンセプトの受容状況（学校において）

- ⇒生徒と教師がこのコンセプトについて話し合う事があるか？
- ⇒生徒たちがこのコンセプトについて話し合う事があるか？

◆家庭と生徒との関わり（家庭において）

- ⇒自分と家族の関係について話し合う事があるのか？
- ⇒自分と生徒（友達）との関係について話し合う事はあるか？

◆社会との関わり（学校と家庭において）

- ⇒勉強と社会との関係について話し合う事があるか？
- ⇒生徒たちと社会との関係について話し合う機会はあるか？

★勉強・遊び以外について話し合う事はあるのか？

3. 景観教育

★景観教育はserendipity*（セレンディピティ）をベースにした“話し合い”をツールとして全員参加の意見交換で成り立ち、市民意識のコンセプトを作り上げることを目標にする

* 瓢箪から駒、遇察力（例：コロンブスのアメリカ大陸発見、諸々の科学的発見など）

<手法>

- ①景観概念の理解⇒景色・風景・景観・風土などを実例を示して話し合いで勉強する（具体的写真を用いる）
- ②“景観まちあるき”設計⇒場所設定と内容の組み立てを生徒たち自身が話し合いで作る
- ③“景観まちあるき”実践⇒一日かけて（半日でも可）②の計画にのっとり話し合いながら実行する
- ④“景観まちあるき”話し合い⇒撮ってきた写真を参加者全員で話し合いでLCFを作成する
- ⑤“景観まちあるき”発表会⇒④で作成したLCFを参加者全員で話し合いながら発表する（意見交換）

4. 景観教育の実践（湘南学園）

★湘南学園では“総合学習”の一環として実施された

<内容>

- ①理解：2013年6月26日（水）2限を用いて実施された
- ②設計：今回は初めてのケースにより予め用意しておいた
- ③実施：2013年7月5日（金）9：00鎌倉駅集合
9：30スタート⇒12：00昼食（鶴岡八幡宮内の休憩所）
⇒鎌倉彫記念館にて伝統工芸を勉強
- ④話し合い/⑤発表：2013年7月11日（木）教室にて2限を用いて実施

<レビュー>

◆基本的内容は実践され生徒達の積極的な参加意識が良かった

<問題点>

- ◆②の設計を生徒自ら実施すべきではないか？
- ◆景観教育を高校生に実施できないか？

5. 景観教育の計画と実践

◆湘南学園の実践する“ESDとしての景観教育”の位置づけ

◆景観教育の長期計画（5年～10年）を明確化する

◆景観教育の年度計画を作成する

（毎年PDCA*を実践して随時改善する）

* Plan⇒Do⇒Check⇒Action

◆景観教育の年度計画実行の専任者を付ける

⇒NPO法人日本景観フォーラムが全面的支援する



話し合い風景



出来上がったLCF